

あつ…
あつ…
あつ…

情熱の羅金十盤

No. 6 (2023.07.20)

【夏休みがやってくる!】



4月の入学以来、あっという間に月日は過ぎ、夏休みが始まるとうしています。「あっという間に」というのは僕の主観かもしれませんが、でも本当にここまでの約3カ月は、春の緊張感や高校生活の忙しさも相俟って、倍速のように感じられたという人もいたことでしょう。そういう意味では、夏休みはホッと一息、といったところでしょうか。

さて、高校生の夏休みというのは極めて貴重な、そして重要な時間です。それは、普段の学校生活では忙しくてなかなか手が回らないことに取り組みのために使えるからです。いくつか例を挙げてみましょう。

・これまでの学習内容の確認

まあこれは言うまでもないですね。ここまでの復習をきっちりやっておきましょう。例えば第1回の英単小テスト、今解いたら満点を取ることができますか? 「無理!」と言うなら、忘れてしまった(記憶が曖昧)こともあった(忘れてしまった)ことがある証拠。そういうのをしっかり覚え直しておきなさい。

・進路を視野に入れた選択科目の相談

秋の科目選択に向けて、いろいろとお家の方や担任の先生と話し合いをしておいてください。また、自分でもいろいろ調べる課題を出していますので、オープンキャンパスに参加したり夢ナビで動画を見たりして、自分の進むべき道を少しずつ考える時間としてください(この後の記事でも述べます)。職業人インタビューも、本気で質問してみると結構面白いと思いますよ!

・読書

感想文を書くために何か読まないか…? と思っている人は多いと思いますが、“感想文のための読書”だけではなく、是非“自分のための読書”にも時間を使ってください。夏休み中に○冊読もう! でも良いですし、本屋さんにどっぷり浸かる“活字浴”の時間を作ってください。…とにかく年次が上がるごとに、読書なだけに使える時間は減っていきます。ノンビリ本が読めるのも今のうち…というわけです(いやホンに)。

・家の手伝いや、家族との時間。そしてお墓参り

去年は受験生だったこともあって、なかなか家の手伝いなどをできなかった(というか、やらせてもらえなかった?)という人も多いのではないですか。で、来々・再来年はまた君たちが忙しくなって、なかなかできなくなると思います(特に3年夏は…)。よって、お家の手伝いをするのにも高1の夏はベストです。別に毎日じゃなくても良いんです。畑の草むしり、お墓の掃除、祖父母宅へ行った時に家事をやる… etc. そういう単発のものでも良い。これも、「普段はできないことをやろう」ということです。

そしてお墓参り。高校生になって初めてのお盆です。お墓の前で手を合わせて、祥雲生として毎日頑張っていることを報告しておきましょう。きつと見守ってくれていますから。

もちろん、ここまでの疲れはしっかりと取り取ってほしいので、休める時はよく休んでください。だらだら過ごして、気付けば夏休みも終わり…なんてことだけは無いようにね。また8月30日に会いましょう。

【キミはどんな選択する? ~カリキュラム説明と小田先生の話を振り返って~】

1年次の、まだ前期の途中だというのに、タイトルどおり、もう来年度の話をしなければなりません。気の早い話…と思うでしょうが、逆に言えば学校の教務部の先生方は、今頃から既に来年度のカリキュラムや選択授業に関する準備をしてくださっているということでもあります。

さて、皆さんにとってはまず、どんな科目を選んで文理に分かれるか? というのが一つ目の大きな分岐点ということになるでしょう。しかし、一言で文系といっても、主に私立大学(短大や専門学校を含む)を目指す文系と国公立大学を目指す文系では、選ぶ科目はだいぶ異なります。数学や理科基礎のある/なしはもちろん、他にも地歴では日本史メインでいくのか、世界史メインでいくのか、ということも選ぶ必要があります。また、理系も同じで、理科なら物理を取るのか生物を取るのか、数学科なら数Ⅲを使うのか使わないのかといった違いもあります。つまり、文系or理系と単純に二択のように見えるけれども、その中ではどんな授業を組み合わせるのか、人によっていろいろと違ってくるものなのです。もう少し正確に言えば、目指す大学や学部・学科などの分野によって、取っておくべき授業が変わってくるということ。そう言えば先日の年次集会でも、小田先生からいろいろんなお話がありましたね。そこで提案ですが、「自分は高校を卒業してからどんな学問分野に進みたいのか?」を、今のうちから漠然とでも考えておく夏にしようぜ、ということです。

長くなりましたが、ここまですりです(笑)。では改めて、考え方/心構えをおさらい。

①「嫌いだから選ばない」は×!

生徒と話していてよく耳にするのは、「僕は国語が嫌いだから文系はやめようと思います」とか、「私は数学が苦手なので理系はダメだと思います」といった声です。こうやって好みや感情で選択科目を判断するのはダメです。もちろん、教科・科目の好き嫌いは誰にでもあるでしょうが、それはそれとして、あくまで受験や進路に必要かどうかで判断しましょう。例えばどんなに国語が嫌いでも、国公立大学を目指すなら文理関係なく国語は全員が受けなければなりません。英語に至っては、国公立でも私学でも、全ての学校・学部・学科、もっと言えば就職試験でも必須です。つまり、絶対に避けては通れない科目ということですね。(英語は事!!と誰も口を揃えて言う理由です)。



では数学はどうでしょうか。文系でも国公立大学を目指すなら受けなければなりません。まあもちろん、数学を使わなくても受けられる国公立大学があるにはありますが、その数は大変少ないので、受験校の選択肢がどうしても狭くなってしまいます。

私立文系なら3教科で受けられるので、数学を使わずに受験できます。しかし、近畿地方の難関大とされる関西学院大学、立命館大学などでは3教科受験とは別に5教科受験も選ぶことができ、しかも5教科型の方が有利になることも多いです。3教科受験の場合、どれか1つでも苦手科目があると一気に不利になります。意外に思いませんか? 科目数の多い5教科型の方が実は苦手科目をカバーしやすい、といった傾向もあるのです。それならいきなり3教科に絞るのは本当に正解なのか? と、一旦立ち止まって考えてみることも大切です。

話を戻しますが、嫌いだから選ばないという回避法(?)で科目を選んでしまうと、今後「受けたい大学を見つけたのに、科目不足で受けられない!」といった事態が起こる可能性があるのです。

②まだあんまり決まっていけない...そういう人ほど幅広い選振を！



「大学に行きたい...くらいは思っているけれど、具体的には決まっていない」。これもよく聞く声です。そりゃそうですよ、高校1年生でそこまで具体的な目標を立てている人の方がむしろ少数派です。だから、受験科目を考えて科目を選択しよう！と言われてもピンと来ないのも、無理のないことです。

そういう人は、こう考えてください。「今後、志望校や志望学部が具体的になっていった時に、どんな大学でも受験できるように、最強の選び方をしておく」です。特に文系で言うところ、数学や理科もフルに使って受験することをお勧めします。を前提にしておこう、ということ。もちろん「自分は私大のみで選ぶ！」と今から決めている人は思い切って選択科目の種類を絞るのもOKですが、どんな大学を目指すのかが決まっていけないのなら、できるだけ幅広く受験できるように科目を選択しておくことをオススメします。よほど積極的・計画的な戦略がない限り、安易に受験科目を削ることのはやめておきなさい。

③担任の先生にこまめに相談しよう！

最後はコレですね。担任の先生を思いっきり頼ってください。もちろん、樋口先生や吉崎でもOKです。とにかく、自分だけで情報を集めて、自分だけで判断するのはなかなか難しいことなので、積極的に質問に行ったり相談したりしてください。遠慮はいりません。

例えば、「自分はこういう学問分野に興味があって、国公立大学に行きたいんですが、どんな科目選択が良いですか？」とか、「看護系に進みたいと思いますが、理系からじゃないと受けられないですか？」とか、もっとそれ以前の「国公立大学と私立大学ってどういう違いがありますか？」とかでも良いです。科目選択⇨進路選択でもあるので、進路の相談も兼ねていっていいと思います。どんどん質問しに行ってください。

そして、お家の方との話し合いも忘れずに。担任の先生に相談に行くと、「お家の人は何でおっしゃってる？」「家族で話し合ってみた？」と聞かれると思います。皆さんの希望と合わせて、お家の方の思いも踏まえてアドバイスをしてあげたいからです。特に大学進学にあたっては...、まあハッキリと言ってしまうほどの高い金額のお金を払ってもらうことになると思います。その金額たるや、高校受験の比ではありません。授業料や入学金だけじゃありません。大学を1校受験するだけでも○万円単位のお金が必要で、いままです。受けに行くための交通費も必要です。場合によっては宿泊費も...。そして合格すれば、入学金や授業料はもちろん、一人暮らしや寮生活が伴う場合もあるでしょう。こういったことも踏まえて、お家の方のご意見も聞いておきましょう。

いかがでしたか。大袈裟な話も書いてしまいましたが、皆さんに目指してほしいのはあくまでも「各自の後悔のない選択」です。後になってから「こんなはずじゃなかった」、「○○にしておけば良かった」といったことをできるだけなくしていくために、ちょっと気が早いかもしれないけれども今のうちからじっくり考えておこう、ということですね。

また、私たち祥雲館高校の先生は、生徒1人ひとりが希望進路に向かって走り続けられるように、そして進路を実現し、笑顔で高校を巣立っていただけるように、今からサポートしていくぞ〜と、燃えています。夏だから暑いのはなく、先生方が熱いのです。そんな“メラメラ”になっている先生方を、利用しない手はない（笑）！

年次団リレーコラム・「あの頃ばくらは」第2回

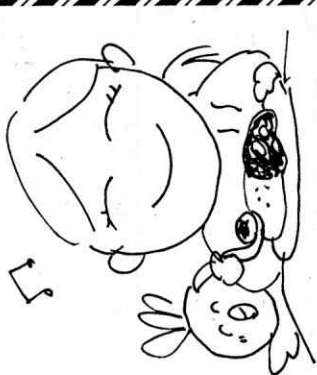
今、高校生である皆さんと接している年次団の先生方も、もちろんかつては高校生だった...。その頃を振り返りながらあれこれと語っていくリレーコラム。第2回は3組担任の池田先生です。

私は、県外の高校に入学し、寮生活をしていました。毎朝6時の起床放送と同時に起きて、すぐに掃除を始めるなど、寮に入ってから慣れないことばかりでした。

その寮では、毎週日曜日の夕食はカレーライスでした。毎週必ず、同じ具のカレーとライス。ですから1年生の5月ごろには、あと何回カレーを食べたら家に帰ることができるかというカウントダウンが始まりました。でも、私の部活は、7月の下旬に公式戦があったので、夏休みになってからは帰れず、みんなより3回くらい多くカレーを食べなければなりません。その3回のカレーは本当に残念な味だった気がします。（作っていただいている方々には、本当に失礼ですが。）

そんな寮生活、高校生活も、慣れてしまえば楽しめるもので、2年生になるころにはカレーカウンタダウンをしなくなりました。

みなさんはどうでしょう。今から6回目の日曜日で夏季休業は終わります。その後、2年次になるまでは長期休業中を入れても31回。フラスコ、卒業式までは47回。どうですか。まだまだ先のことと想像できませんか。



この夏は、高校での初めての暑い、熱い夏。勉強や部活動、進路について調べたり、遊んだり、と忙しくなります。カレーのカウントダウンといっしょで、この7月までは長くてもしんどかったかもしれませんが、この夏が終わるとあといっ間に高校生活が進みます。

みなさんには祥雲館での3年間で、「やり切った」「充実してたな」と思える「何か」に精一杯取り組んでほしい。そして、次のステージへの期待でいっぱいになるまで卒業してほしい。今、やりたいことが頭に浮かぶ人はそれを思い切りやってみてください。したいことが見つからない人は、ひとまず目の前にある課題や部活動をこなしていってください。そのうち自分の「何か」が見つかるはずです。

あと84回のカレーの日。自分から何もしないで与えられるだけの高校生活なんて、もったいない。（第2回：終わり）

【8月の大まかな予定】 ※現時点での予定です。Classroomの連絡にも注意しておくこと！

日付	1限目	2限目	3限目	4限目
8月21日(月)	読書感想文提出、進路課題提出締切日（それぞれ職員室前） 後期補習開始			
8月30日(水)	大講、全集会	LHR（進路課題発表）	LHR	—
8月31日(木)	課題考査(英)	課題考査(国)	課題考査(数)	5～7限目：授業
9月1日(金)	通 常 授 業			